

平成30年 久留米市政10大ニュース

1位は『民間出身の市長誕生』

平成30年の久留米市政10大ニュースを、次のとおり発表します。

順位	項目
1	民間出身の市長誕生 課題解決のP T設置、企業との連携協定、e-市役所、360度人事評価など民間出身の視点から市政を推進
2	平成30年7月豪雨が発生 市内各地で床上浸水など甚大な被害発生。迅速な復旧・復興に取り組む
3	市立南筑高校女子柔道部が金鷲旗で連覇 そのほか、久留米市内の複数高校が様々な大会で今年も躍進
4	認知症高齢者等支援事業がスタート 認知症高齢者等個人賠償責任保険を新たに
5	セーフコミュニティ国際認証を再取得 地域との協働による、安全安心のまちづくりが高評価
6	久留米がカザフスタンの東京オリ・パラ事前キャンプ地に決定 昨年のケニアに続き2か国目。2019年、同国の強化合宿も内定
7	農産物PR動画発表など、情報発信を強化 トップセールスも積極的に行うとともに、広報課を広報戦略課に改組
8	久留米アリーナ開館 東京2020オリ・パラを前に、充実したスポーツ振興拠点が完成
9	梅林寺有馬家霊屋 国指定重要文化財に内定 保存の良さを高く評価。大名家霊廟の指定は九州で初
10	久留米市の都市計画を見直し 旧4町ともバランスの取れた一体的な都市づくりの基盤が整う
次点	◎久留米大学と理研が共同研究室を開設 ◎大手シンクタンクの調査で、子育てしやすいまち九州1位に ◎ゆるキャラグランプリで、くるっぱが第18位と躍進 ◎田主丸ふるさと会館リニューアル

平成30年 久留米市政10大ニュース

【1位】

民間出身の市長誕生

～課題解決のPT設置、企業との連携協定、e-市役所、360度人事評価など民間出身の視点から市政を推進

1月31日、第20代久留米市長に大久保勉氏が就任、新たな市政がスタートしました。大久保市長は、「住みやすさ日本一」の久留米を目指し、民間出身者の視点でまちづくりを進めています。

まず、西鉄久留米駅東口周辺の再開発、20年から30年後を見据えた都市づくり構想、久留米シティプラザの運営のあり方というまちづくりの主要な課題に対応していくため、3つのプロジェクトチームを発足させ、検討を進めています。その中で、通称・リベールの課題を整理し、その解決に向けた検討にも着手しました。

また、西鉄や大塚製薬、県石油商業組合、ヤフーやKBCなどと、公共交通やスポーツ振興、防災などの分野で連携協定を次々に締結。民間企業と連携したまちづくりを進めました。

さらに、ICTを活用して市内のWi-Fi化を進めるなど、市民にとって便利で利用しやすく、職員も働きやすい「e-市役所」の取り組みをスタートさせました。また、現行の人事評価に加え、部下や同僚からも多面的に評価を受ける「360度人事評価」を部・次長級に導入しました。今後、管理職全体に拡大する予定です。

これからも、「暮らし・教育(おもいやりと育み)」「安心・快適・都市力(やすらぎと発展)」「地方創生、経済成長・雇用(魅力と活力)」の3つの視点を中心に、「オール久留米」でまちづくりに取り組んでいきます。

【2位】

平成30年7月豪雨が発生

～市内各地で床上浸水など甚大な被害発生。迅速な復旧・復興に取り組む

7月5日から7日にかけて、西日本を中心に記録的な豪雨に見舞われました。久留米市では、市内各所の中小河川が氾濫。広範囲で冠水し、多くの住居や商業施設等の浸水被害、農作物被害が発生しました。市は、災害対策本部を設置して、避難情報の発令や救助活動などを行うとともに、相談窓口を開設して市民や事業者の相談に応じました。

その後、義援金の募集や配分、ボランティアによる生活復旧支援、罹災証明の交付や見舞金の支給、税の減免、大量の災害廃棄物の収集・処分など復旧・復興にしっかり取り組みました。また、被害の大きかった倉敷市や大洲市などに職員を派遣しました。

【3位】

市立南筑高校女子柔道部が金鷲旗で連覇

～そのほか、久留米市内の複数高校が様々な大会で今年も躍進

久留米市立南筑高校女子柔道部が、7月21日から24日に行われた金鷲旗高校柔道大会で、昨年が続いて優勝し、大会2連覇を果たしました。また、同校の素根輝選手が、8月31日にインドネシアのジャカルタで開催された世界柔道選手権アジア大会の78キロ超級で優勝を果たすなど、今年も柔道部女子は目覚ましい活躍をしました。

同じく市立久留米商業高校の空手部、珠算・電卓部、ワープロ部、情報処理部、写真部も全国大会に出場。その他、福岡県立明善高校の化学部が全国高校総合文化祭の化学部門で最優秀賞を受賞したり、私立祐誠高校弓道部男子が紫灘旗全国高校遠的弓道大会で優勝したりするなど、市内の高校部活動が躍進しました。

【4位】

認知症高齢者等支援事業がスタート

～認知症高齢者等個人賠償責任保険を新たに

認知症の人やその家族が在宅で生活する上での負担を軽減するための支援事業として、全国で5例目となる認知症高齢者等個人賠償責任保険を開始しました。認知症の人が他人にけがをさせたり、物を壊したりして法律上の損害賠償責任を負う場合に備え、市が保険料を全額負担するものです。これまで「認知症の人と家族の会」や医療・介護・福祉関係者、認知症サポーターの皆さんと一緒に取り組んできた様々な支援と合わせ、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を進めました。

【5位】

セーフコミュニティ国際認証を再取得

～地域との協働による安全安心のまちづくりが高評価

平成25年に取得した「セーフコミュニティ」国際認証を再取得。12月に再認証式典が行われました。5年間の取り組み成果を審査する現地審査では、市民や地域の様々な団体との協働の取り組みが公認審査員に「世界トップクラス」と高く評価され、再認証が決定。今後も、安全安心のまちづくりに向けて、さらに大きく飛躍していきます。

【6位】

久留米がカザフスタンの東京オリ・パラ事前キャンプ地に決定
～昨年のケニアに続き2か国目。2019年、同国の強化合宿も内定

カザフスタン共和国と2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプについて基本合意し、7月に調印式を行いました。昨年のケニア共和国に続き2か国目です。カザフスタンは、柔道、レスリング、ボクシング、ウェイトリフティングなどの強豪国です。開催年の7月中旬に、久留米アリーナを中心に、キャンプを行う予定です。また、来年、強化合宿を行うことも内定しました。選手団と市民の交流を図るとともに、全力を挙げて同国のキャンプなどを支援していきます。

【7位】

農産物PR動画発表など、情報発信を強化
～トップセールスを積極的に行うとともに、広報課を広報戦略課に改組

7月に、オリジナルソング「くるめさん ぐるめさん」にあわせて、40品目の農産物や農作業風景を紹介したPR動画が完成。市HPや動画サイトでの公開のほか、市内のスーパーなどで放映しています。また、12月から、テレビやラジオでCMを開始。広く「農業都市 久留米」を発信しています。さらに、福岡市や大阪市で柿やリーフレタスなどのトップセールスを実施し、大都市圏に向けて久留米産農産物の魅力を積極的にPRしました。農業分野に限らず、こうした全庁的な情報発信を強化するため、10月に組織改正を行い、広報戦略課を設置しました。

【8位】

久留米アリーナ開館
～東京2020オリ・パラを前に、充実したスポーツ振興拠点が完成

福岡県と共同で整備を進めていた「久留米アリーナ」が2年半の工事期間を経て、6月にオープン。こけらおとしの全日本実業柔道団体対抗大会を皮切りに、トップレベルのスポーツ大会が続々と開催されました。今後、東京2020五輪・パラリンピックに向けたスポーツ熱の高まりに弾みがつくとともに、アスリートの聖地となっていくことが期待されます。

【9位】

梅林寺有馬家霊屋 国指定重要文化財に内定

～保存の良さを高く評価。大名家霊廟の指定は九州で初

10月19日、国の文化審議会が、梅林寺の有馬家霊屋5棟を重要文化財（建造物）に指定することを、文部科学大臣に答申。国の重要文化財に指定される見通しとなりました。同建物は、有馬家の歴代藩主の墓や位牌を納めた霊廟で、約400年前の建築当時の姿が良好な状態で残っていることが高く評価されました。大名家の霊廟が指定されるのは九州では初めてです。今後、貴重な文化財を大切に保存していくとともに、有効な活用を検討していきます。

【10位】

久留米市の都市計画を見直し

～旧4町ともバランスの取れた一体的な都市づくりの基盤が整う

広域合併前の旧久留米市と旧4町では、土地の使い方のルールが異なっていました。均衡のとれた一体的な都市づくりを行っていくため、3月に、旧4町の土地の使い方のルールを見直しました。田主丸町・城島町を都市計画区域へ移行するとともに、市街地部に用途地域を、また、4町の郊外部に特定用途制限地域を指定し、住宅地、商業地、工業地といった土地利用のルールを導入しました。これにより、都市づくりを進める基盤が整いました。

<次点>

◎久留米大学と理研が共同研究室を開設

8月に、久留米大学と理化学研究所は、「小児のビタミンD代謝異常メカニズムの解明」を目的とした小児疾患に関する共同研究室を同大学医学部内に設置しました。

久留米市は、理研との連携拠点づくりを進めており、理研のバイオ分野における九州初の共同研究室となります。9月には、「ビタミンD代謝の大切さと小児の発育・発達」をテーマに記念講演会を開催しました。

◎大手シンクタンクの調査で、子育てしやすいまち九州1位に

日経BP総研が運営するウェブサイト「新・公民連携最前線」が2月に公表した「ヒト・モノ・カネで見る『自治体子育てランキング』」（全国の325市区が対象）で、久留米市が九州・沖縄エリアで1位になり、子育てしやすいまちとして高い評価を得ました。

◎ゆるキャラグランプリで、くるっぱが第18位と躍進

くるっぱが、6年連続で「ゆるキャラグランプリ」に参加。激戦の中、これまでの最高順位だった昨年の100位から大きく躍進し、ご当地ランキングで507体中18位になりました。

◎田主丸ふるさと会館リニューアル

「カップの駅」として親しまれている田主丸ふるさと会館が改修工事を終え、耳納北麓の観光拠点としてリニューアルしました。7月には、耳納北麓の特産物を使ったオリジナルのメニューを飲食できる観光案内カフェ「KAPATERIA」もオープンしました。